

Title	Gallia 58号 会員研究活動報告
Author(s)	
Citation	Gallia. 58 p.120-p.128
Issue Date	2019-03-03
oaire:version	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/72875
rights	
Note	

Osaka University Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

Osaka University

会員研究活動報告

(2018年1月1日～12月31日)

アヴォカ・エリック

論文

- ・ Argent et rapports sociaux sur la scène française du XVIII^e siècle (2/2 : la Révolution) (*Gallia*, n° 57, pp. 13-22, 3月)

口頭発表

- ・ Sénat, Communes, Congrès... : les assemblées délibérantes de la Révolution, en leurs miroirs dramaturgiques (communication présentée dans le cadre de la Journée d'études (研究集会) «Théâtre et espace public pendant la Révolution française», 慶應義塾大学, 12月15日)

その他

- ・ Co-organisation, avec le Professeur Yoichi Sumi (鷺見洋一 (慶應義塾大学)), de la Journée d'études (研究集会) «Théâtre et espace public pendant la Révolution française», Introduction et synthèse conclusive des travaux (慶應義塾大学, 12月15日)

足立 和彦

口頭発表

- ・ モーパッサンの修業時代：フローベールの弟子として (フローベール研究会, 獨協大学, 6月2日)
- ・ 見えないものを見る：モーパッサンの幻想小説 (日本フランス語フランス文学会, 秋季大会ワークショップ「見えるもの, 見えないもの—19世紀幻想文学再考—」, 新潟大学, 10月28日)

雑談記事

- ・ 対訳で楽しむモーパッサンの短編 (『ふらんす』10月号～12月号, 白水社, 各回4p.)

井上 直子

書評

- ・ 三浦信高・塚本昌則編『ヴァレリーにおける詩と芸術』水声社 (『ふらんす』1月号, 白水社, 12月)

講座

- ・ 「フランス文学を読む」(シニア CITY カレッジ, 2018年4月～2019年3月)

岩村 和泉

口頭発表

- ・ スタール夫人『デルフィーヌ』とバルザック『ランジェ公爵夫人』におけるコミュニケーション不全のテーマ (日本フランス語フランス文学会関西支部大会, iSite なんば (大阪府立大学), 12月1日)
- ・ 『ランジェ公爵夫人』とスタール夫人『デルフィーヌ』—孤独のテーマをめぐる (第102回関西バルザック研究会, 近畿大学会館, 3月24日)

上江洲 律子

講演

- ・ フランスの沖縄！？～ブルターニュ地方～（沖縄国際大学「うまんちゅ定例講座 変わる沖縄 ～地域環境政策学の視点から～」, 沖縄国際大学, 7 月 14 日）

植村 実江

論文

- ・ スタール夫人における天才像—ルソー、ディドロとの比較において—（*Gallia*, n° 57, pp. 23-33, 3 月）

打田 素之

論文

- ・ 『君の名は。』大ヒットの要因：日本的悲恋物の系譜における位置づけ（*Journal of the Faculty of Letters, Kobe Shoin Women's University*, n° 7, 神戸松蔭女子学院大学学術研究委員会, 3 月 5 日）

太田 晋介

論文

- ・ Manifester la pensée : à propos de deux textes écrits par Ponge en 1941（*Gallia*, n° 57, pp. 75-84）

口頭発表

- ・ 書物の問いを再び開くために：マラルメとボンジュ（日本フランス語フランス文学会，秋季大会ワークショップ「マラルメと 20 世紀の詩人たち—没後 120 年目に振り返る—」, 新潟大学, 10 月 28 日）

小川 美登里

翻訳・解説

- ・ パスカル・キニャール著『静かな小舟』（水声社，「パスカル・キニャール・コレクション＜最後の王国 6＞」）『落馬する人々』（水声社，「パスカル・キニャール・コレクション＜最後の王国 7＞」）

口頭発表

- ・ le voyages vers l'Infans（国際シンポジウム Voyages traversés de langues, Fabrique de la littérature avec Pascal Quignard, 日仏会館, 5 月 13 日）
- ・ politiques des voix, ou l'enfance de l'art（国際シンポジウム Marguerite Duras, une critique de la raison, 立教大学, 11 月 23 日）

柏木 加代子

共編著

- ・ 「日本の浮世絵師 エマニュエル・トロンコワによる「肉筆画コレクション」の選択」（pp. 91-111）, 仏語版（pp. 291-309）（『甦る江戸肉筆絵画—トロンコワ・コレクションを読み解く』, 水声社, 319p., 12 月 20 日）

論文

- ・ Les kakemono du fonds Tronquois-Lebaudy（Béatrice Quette（dir.）, le catalogue: *Japon-japonismes*, Paris, MAD（musée des Arts décoratifs）, pp. 107-110）

エッセイ

- ・ アウシュヴィッツ収容所—「香り」の戦慄（『ゆうばえ』第 6 号，鳴滝書房，pp. 85-87, 10 月 20 日）

柏木 隆雄

単著

・ フランス語で読む『カルメン』（白水社, 143p., 10月26日）

・ 『水鳥荘文庫目録 第二版』（弘学社, 512p., 10月26日）

共編著

・ まえがき (pp. 3-12), 「甦る江戸肉筆絵画」 (pp. 193-201), 仏語版 Préface (pp. 225-230), En guise de postface (pp. 310-316) (『甦る江戸肉筆絵画—トロンコワ・コレクションを読み解く』, 水声社, 319p., 12月20日)

共著

・ コラム「パリに残っていた江戸絵画」 (pp. 200-205) (『大江戸 知らないことばかり 水と商いと大火の都』, NHK出版, 213p., 5月25日)

論文

・ バルザック『続女性研究』を読む—アンリ・ド・マルセーの恋— (『大手前大学論集』第18号, pp. 153-186, 7月1日)

・ La Chine dans L'Interdiction de Balzac (*The Balzac Review / Revue Balzac*, n° 1, Classiques Garnier, pp. 99-120, 7月25日)

・ *Balzac et la représentation de la Table* Journée d'études internationales (*L'Année balzacienne*, pp. 9-12)

エッセイ・その他

・ 仏文学者としての原先生 (*Gallia*, n° 57, 大阪大学フランス語フランス文学会, pp. 118-125, 3月)

・ 家庭教師 今は昔の物語 (『ゆうばえ』第5号, 鳴滝書房, pp. 47-49, 5月15日)

・ 三匹目のドジョウ (桂文我, 柏木隆雄「二人会」プログラム, 7月8日)

・ 三重同工会の平成30年 (『赤壁』第92号, 三重同工会, pp. 2-3, 9月1日)

・ 人生の「ゆうばえ」 (『ゆうばえ』第6号, 鳴滝書房, pp. 69-71, 10月20日)

・ 平成30年「どうこういせ」に寄せて (『どうこういせ』第35号, 三重同工会伊勢支部, pp. 2-3, 12月10日)

口頭発表・講演

・ バルザックと食。『ラ・ブイエーズ』について (『名作の中のフランス料理』, ラ・フルール (津市), 1月14日)

・ 漱石とメリメ その幻想文学の理論について (富山大学シンポジウム, 富山大学, 2月9日)

・ 会津八一と吉野秀雄—奈良の古刹、古佛をどう歌ったか— (『美術茶話会』, 大阪倶楽部, 2月14日)

・ バルザックと中国 (三重日協協会, 放送大学三重学習センター共催, 三重県総合文化センター文化会館, 4月8日)

・ 『論語』は19世紀フランスでどう読まれたか。(後藤芝山祭講演, 中野天満宮 (高松市), 4月15日)

・ 日本はヨーロッパをどう知ったか。ヨーロッパは日本をどう描いたか (芦屋市公民館市民講座, 芦屋市市民センター, 4月21日)

・ 谷崎潤一郎の美食の世界 (谷崎潤一郎記念館主催, 西宮北口「花ゆう」, 4月22日)

- ・ヨーロッパを日本はどう知ったか？（放送大学大阪学習センター 学友・同窓会講演，放送大学大阪学習センター，5月20日）
- ・会津八一「南京新唱」を読む（志賀直哉旧邸講演，志賀旧邸白樺サロン（奈良高畑），5月21日）
- ・明日を楽しめ（Carpe diem 大阪，北野倶楽部，6月8日）
- ・*La tentation de la reprise : traduction et réception de Balzac au Japon* (Journée d'études du Groupe International de Recherches Balzacienes, à la Maison de Balzac, Paris, 6月15日)
- ・松阪あれこれ一本居宣長、小津久足、小津安二郎―（桂文我，柏木隆雄「二人会」，松阪産業振興センター大ホール，7月8日）
- ・和魂洋才とは何か。（未来創造カレッジ，大阪堂島ビルディング1階，8月18日）
- ・菊池寛の文学―『蘭学事始』を中心に―（菊池寛記念館「文藝」講演会，10月6日）
- ・挑戦者たちの系譜 外国語を江戸人はどう学んだか（シニア自然大学 自然と文化科講演，大阪産業創造館，11月16日）
- ・小説家としての小林一三（芦屋国際交流協会文学セミナー，潮芦屋交流センター，11月17日）
- ・文を学び 武をば練るは死語か？（大阪大学文学部創立70周年講演，大阪大学会館，11月23日）
- ・バルザックと翻訳（関西バルザック研究会，近畿大学，12月22日）

北村 卓

- | | |
|-----|---|
| 編著 | ・『表象と文化 XV』（大阪大学言語文化研究科「言語文化共同プロジェクト2017」，97p.，5月） |
| 共編著 | ・『実用フランス語技能検定試験2018年度版5級 仏検公式ガイドブック』（フランス語教育振興協会編，第1部，pp. 11-107，3月） |
| 論文 | ・谷崎潤一郎のボードレール受容に関する一考察——谷崎訳「Le Fou et la Vénus」をめぐる（大阪大学言語文化研究科「言語文化共同研究プロジェクト2017」『表象と文化 XV』，pp. 43-54，5月） |
| 講演 | ・Takarazuka et la France（カフェ・デ・ザミ，アリアンス・フランセーズ札幌，12月8日） |
| | ・フランス、日本、そして北海道―日仏修好160周年にあたって（札幌日仏協会創立30周年記念シンポジウム基調講演，北海道大学，12月9日） |
| 講義 | ・宝塚歌劇のイメージ戦略―海外公演を中心に（明治大学連続講義「情報コミュニケーション学―「トランスナショナル・コミュニケーションにおける流行，文化現象の形成と伝達」」第13回，12月17日） |

小坂 美樹

論文

- ・ジッドによる未完のユゴー論—百年後の「ユゴー、残念ながら！」—（『ステラ』第37号，九州大学フランス語フランス文学会，pp. 255-266）

小山 美沙子

単著

- ・フロベールの『紋切型辞典』の中の女性達（あるむ，3月）

論文

- ・19世紀前半におけるフランスの知識の普及書（1）（名古屋外国語大学論集第2号，pp. 213-227，2月）
- ・19世紀前半におけるフランスの知識の普及書（2）（名古屋外国語大学論集第3号，pp. 187-202，7月）

コラム

- ・「何よりも音楽を」（*Artes MUNDI*, Vol. 3, 名古屋外国語大学ワールドリベラルアーツセンター，3月）

坂巻 康司

共編著

- ・『象徴主義と〈風景〉—ボードレールからブルーストまで—』（水声社，385p., 10月31日）

論文

- ・マラルメと『ワグナー評論』—19世紀後半の雑誌メディアに対峙する詩人（『国際文化研究科論集』，25号，pp. 41-55，3月）

口頭発表・講演

- ・フランス近代詩を読む—ボードレールからの出発（『第51回リベラルアーツサロン』，東北大学片平キャンパス北門会館，3月2日）
- ・詩的イメージの変貌、その根底にあるもの—ユーゴーからマラルメへ（『マラルメ没後120年シンポジウム』，慶應義塾大学，9月8日）
- ・イヴ・ボヌフォアにおけるマラルメの位置（日本フランス語フランス文学会，秋季大会ワークショップ「マラルメと20世紀の詩人達—没後120年目に振り返る」，新潟大学，10月28日）

その他

- ・放送大学面接授業「近現代フランス詩を読む」（放送大学宮城学習センター，5月12日，13日）

高岡 尚子

論文

- ・政治的言説とジェンダー—1848年のジョルジュ・サンドをめぐる（『欧米言語文化研究』第5号，奈良女子大学文学部欧米言語文化研究会）

書評

- ・佐藤文香・伊藤るり編『ジェンダー研究を継承する』（人文書院，2017年）（『アジア・ジェンダー文化研究』第2号，奈良女子大学アジア・ジェンダー文化研究センター）

高橋 愛

口頭発表

- ・セザンヌとゾラにおける芸術創造の接点―書簡で語られた過去・現在・未来―（法政大学社会学部学会第24回社会学コロキウム，法政大学，6月26日）
- ・セザンヌ―ゾラ書簡における画家と作家の関係 La correspondance entre Cézanne et Zola : l'artiste et l'écrivain（日仏美術学会国際シンポジウム「セザンヌとゾラの創造的関係を再考する」，京都工芸繊維大学，12月2日）

竹田 順子

共著

- ・『フランスの歌いつがれる子ども歌』（石澤小枝子・高岡厚子共著，大阪大学出版会，阪大リーブル63，3月）

武田 裕紀

翻訳・解説（共）

書評

- ・『デカルト数学・自然学論集』（法政大学出版会，2月）
- ・山田俊弘『ジオコスモスの変容：デカルトからライプニッツまでの地球論』（勁草書房）（『科学史研究』第Ⅲ期第56号 n° 284，1月号，pp. 325-327）

口頭発表

- ・デカルトにおけるマテシスと想像力（京都哲学史研究会，京都大学楽友会館，6月9日）
- ・＜次元＞をめぐるふたつのエピステーメ―パスカルとノエル神父―（第4回近世の知脈，大阪大学豊中キャンパス，8月4日）
- ・『省察』におけるマテシスと想像力（日仏哲学会，明治大学，9月8日）
- ・空虚から次元へ―近世初期の空間概念―（日本科学史学会西日本研究大会，広島大学，12月1日）

堤崎 暁

口頭発表

- ・サンド『ジャンヌ』におけるヒロインの人物像（第7回関西学生フランス文学大会，神戸大学，8月27日）

寺本 成彦

口頭発表

- ・2017年度独仏現地調査に見る難民の社会統合の現状と課題 ―フランス：エクス・アン・プロヴァンス、マルセイユ（科研基盤研究（B）「EUにおける難民の社会統合モデル」第2回公開研究会，東北大学大学院国際文化研究科，6月11日）

中村 啓佑

- ・大衆のスペクタクル―大道芸から遊園地まで（神戸 CAF，秋期6回連続講座）

濱田 明

- 共著
口頭発表
- ・『赤い鳥事典』（赤い鳥事典編集委員会編，柏書房，7月）
 - ・ドービニエとジャンル（大阪大学フランス語フランス文学会第82回研究会，大阪大学，3月3日）
 - ・Le reportage littéraire au Japon au XXe siècle (conférence dans le cadre du séminaire «littérature et reportage», パリ第13大学，3月15日)
 - ・書簡集から見るドービニエ（日本ロンサル学会，同志社びわこリトリートセンター，8月13日）
 - ・ハーンの回想の中の家族（熊本大学学術資料調査研究推進室公開講演会「ハーンと家族」，熊本大学，11月22日）

林 千宏

- 共著
論文
エッセイ
- ・『実用フランス語技能検定試験2018年度3級 仏検公式ガイドブック』（フランス語教育振興協会編，第1部，pp. 11-144，4月）
 - ・鏡とエンブレム—セーヴ、ロンサル、ペローにおける鏡のモチーフ（大阪大学大学院言語文化研究科「言語文化共同研究プロジェクト2017」『表象と文化 XV』，pp. 9-20，5月）
 - ・レミ・ペローにおける牧歌の詩学—『牧歌』（1565）を中心に—（『ロンサル研究』XXXI，pp. 77-98，8月）
 - ・連載「仏検3級対策 3級はこわくない！」（『ふらんす』白水社）
第1回「まずは、出題内容とレベルを知ろう！」 pp. 57-59，3月
第2回「動詞の活用、どう攻略する？」 pp. 33-35，4月
第3回「仏検直前、何をすべき？」 pp. 33-35，5月
第4回「仏検直後、あやふやなところを見直そう！」 pp. 33-35，6月
第5回「前置詞、どんなふうに勉強すればいい？」 pp. 33-35，7月
第6回「並び替え問題の攻略法は？」 pp. 33-35，8月
第7回「聞き取り問題、ここで差が出る！」 pp. 33-35，9月
第8回「話の流れを読むために」 pp. 33-35，10月
第9回「文法を振り返ろう—法について」 pp. 33-35，11月
第10回「長文読解、どうクリアする？」 pp. 33-35，12月

春木 仁孝

- 論文
- ・現代フランス語のçaを主語とする非人称的表現について（『言葉のパースペクティブ』，開拓社（中村芳久教授退職記念論文集刊行会），pp. 2-13，3月）
 - ・嗅覚をあらわす sentir の構文と意味（大阪大学大学院言語文化研究科「言語文化共同研究プロジェクト2017」『時空と認知の言語学 VII』，pp. 41-50，5月）

廣田 大地

- 共編著 ・『象徴主義と〈風景〉—ボードレールからプルーストまで—』（水声社, 385p., 10月31日）
- 論文 ・lyrisme/lyricism のフランス語・英語間における差異について：接尾辞 isme/ism による造語作用をめぐって（『国際文化学研究』50号, 神戸大学国際文化学研究科, pp. 43-67, 7月）
- 講演 ・ボードレールと抒情性（学習院大学, 10月20日）

福田 公子

- 単著 ・『19世紀パリのサロン・コンサート—音楽のある社交空間のエレガンス<資料編>』（三帆舎, 150p., 5月18日）

藤田 義孝

- 口頭発表 ・空と大地から、砂漠と宇宙へ—サン＝テグジュペリ作品に見る飛行のテーマ（日本英文学会第90回大会, シンポジウム第9部門「イカロスを追いかけて—空をめぐる文学的想像力」, 東京女子大学, 5月20日）

道廣 千世

- 口頭発表 ・ロマンティック・バレエにおける身体の在り方について—カルロ・ブラジスの身体像を軸に（第7回関西学生フランス文学大会, 神戸大学, 8月27日）

山崎 恭宏

- 口頭発表 ・ド・クインシーとピラネージ—『あら皮』から『娼婦の栄光と悲惨』へ（大阪府立大学, 9月1日）

山上 浩嗣

- 論文 ・モンテーニュの「氣をそらすこと」とパスカルの「氣晴らし」（『ステラ』37号, 九州大学フランス語フランス文学研究会, pp. 91-112, 12月）
- 翻訳 ・ディドロ『サロン』抄訳（3）（『大阪大学大学院文学研究科紀要』58巻, pp. 35-96, 3月）
- エッセイ ・連載「寝るまえ5分のパスカル『パンセ』入門」（『ふらんす』白水社）（<http://webfrance.hakusuisha.co.jp/categories/2/>）：第11回「外見の美」, 2018年2月号, pp. 46-47, 1月
第12回（最終回）「一週間と全生涯」, 2018年3月号, pp. 46-47, 2月
- 口頭発表 ・『パンセ』原稿と写本および校訂について：研究の現状（「フランス近世の〈知脈〉」第4回研究会, 大阪大学豊中キャンパス, 8月4日）

- ・『パンセ』原稿と写本および校訂について：研究の現状（第83回大阪大学フランス語フランス文学会研究会，大阪大学豊中キャンパス，9月29日）
- ・今日は何もしなかった—『エセー』に見るモンテーニュの脱力的生き方（平成30年度ラスタ教養大学・言葉文化コース，伊丹ラスタホール（伊丹市立生涯学習センター），10月22日）

山中 知子

単著

- ・『飛天の舞』（朝日出版，392p., 2月）

山本 健二

論文

- ・L'influence de Baudelaire sur quelques textes du premier Verlaine — Autour des poèmes subversifs et clandestins — (*Gallia*, n° 57, pp. 55-64, 3月)

その他

- ・フランス語の授業における学生の積極的な授業参加のために（授業研修会・実践報告会，神戸学院大学，9月15日）

和田 章男

論文

- ・ブルーストとワーグナー受容—啓示としての『パルジファル』（*STELLA*, n° 36, pp. 85-99, 1月）

書評

- ・Cécile Leblanc, *Proust écrivain de la musique : l'allégresse du compositeur* (*Bulletin d'informations proustiennes*, n° 48, pp. 189-191.)

口頭発表・
講演

- ・ブルーストとベートーヴェン受容（関西ブルースト研究会，京都大学，3月31日）
- ・文学と音楽が会合するとき—フランス人作家によるベートーヴェン受容—（第9回大阪大学文学部・文学研究科同窓会講座，大阪大学中之島センター，5月12日）
- ・ブルーストとドビュッシー『ペレアスとメリザンド』（関西ブルースト研究会，京都大学，12月22日）